

手順書：循環動態に係る薬剤投与関連

30. 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整(1)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見（動悸の有無、尿量、血圧等）、血行動態及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中のカテコラミン（注射薬）の投与量の調整を行う

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. 血圧が維持されており、その他のバイタルや意識レベル、呼吸状態が安定している患者
2. 血圧の軽度の低下により投与中のカテコラミンの增量が必要な患者（状態が不安定でないもの）



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 意識障害の変化がない
- バイタルサインの著しい変動がない
- 新たな神経症状の出現、胸痛、呼吸困難の出現がない
- 治療方針の確認

病状の範囲外

不安定

緊急性あり

担当医師に直接連絡

病状の範囲内



安定

緊急性なし

【診療の補助の内容】

- 持続投与中のカテコラミンの投与量の調整
 - ・バイタルサインをモニタリングする：血圧、心拍数、経皮的酸素飽和度（SpO₂）
 - ・心係数（CI）、心拍出量（CO）、肺動脈圧（PA）、肺動脈楔入圧（PCWP）、混合静脈血酸素飽和度（SvO₂）、尿量等をモニタリングする
 - ・添付文書の用法・容量に基づきカテコラミンの投与量を調整する（基本的には中心静脈ラインから投与する）
 - ・カテコラミン
 - ドバミン塩酸塩
 - ドブタミン塩酸塩
 - ノルアドレナリン



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 意識状態の変化
- バイタルサインの変化
- 心係数（CI）、心拍出量（CO）、肺動脈圧（PA）、肺動脈楔入圧（PCWP）、混合静脈血酸素飽和度（SvO₂）
- 呼吸状態の悪化
- 自覚症状の悪化
- 尿量
- 心エコー所見
- 薬物による副作用の有無：動悸、頭痛、恶心・嘔吐、静脈炎の有無等
- 治療制限の有無

<確認事項>

異常・緊急性あり

担当医師に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- 担当医師に直接連絡する



【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

- 担当医師に直接連絡する
- 特定行為の実施を診療録に記載する